

令和元年度 第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和元年9月5日(木) 午後3時30分～午後5時30分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎東館 5-3・5-4会議室
- 出席委員 深草、花田、田口、濱口、田垣、尾関、伊寿、森、杉山、北川、柴原、
近、鳥堂
- 事務局 健康福祉部
・次長 大井戸、参事 鈴木
・こども課 課長 堀川、副参事 谷、保育係長 濱地、
保育施設管理係長 須川、こども育成係長 福田、井坂
・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
・こども発達支援室 室長 岩佐
・生活支援課 課長 山崎 生活支援係長 川上
教育委員会事務局
・教育総務課 副参事 前村、西野
・学校教育課 課長 西岡、指導係主幹 村井
・社会教育課 課長 山口、課長補佐 阿部
- 同席者 株式会社 ぎょうせい 白井
- 議 題
- (1) 個別施策の展開と事業量の見込みについて
 - (2) 計画素案について
 - (3) 今後の予定

- ・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１－１、１－２、１－３）

（「●」は委員意見、「→」は事務局回答を表す）

- 放課後子ども教室の目標講座数60講座が未達だが、実施日数120日としているのはなぜか。

→これまで開講数としていたが、現在の和太鼓教室の年間50日を1講座として勘定をしており、正確な数を把握するにはふさわしくないため実施日数120日として目標値を改めている。

- こども医療費助成を中学校卒業前まで窓口無料にはできないか。不要不急の時間外受診が増えるのではないかと窓口無料化に反対であったが、結局そのようなことはあまりなく、病院側の経理の負担も減るため、中学校まで窓口無料化にしてもらえると助かる。

→今現在はそのような予定はないが、担当課長に伝える。

- 民生委員・児童委員の未達成というのは、相談がないということか。

→民生委員全体で児童に関する相談を受けた件数ということでこの件数を上げている。

- 仕事をしながら民生委員をしており、なかなか昼間にいないなどの理由で相談しにくいという意見や、実際相談を聞かせていただく際にも、個人情報だから言う必要がない、といった声もあり動きたくても動けず、守秘義務で定められていることも説明するが、なかなか理解してもらえない。民生委員なのに知らなかったのかと言われても、情報が全く入ってこない場合があるため、そういうジレンマが多い。

【事務局より】

議題（２）について説明（資料２－１）

- 合計特殊出生率の推移、将来の人口推計は伊勢市だけのデータではなく、経済圏が伊勢地区である1市4町のまとめたデータはないのか。

→伊勢市のデータしかない。他の町のデータをもらい、このグラフに掲載するのは難しい。

- 不登校の問題。あるテレビで校長先生が認めたら、学校外のところでも登校と認めると

いう制度があると聞いた。

→不登校の児童生徒に向けて、学びの場を学校以外でも認める動きは把握している。伊勢市でも、本当にその日その場できちんと学習していることが把握できれば学校長判断で出席扱いとしてもらうことはあると思う。しかし、全てを確認できないのに出席扱いにするのは難しく、現在検討中。

- 放課後児童クラブの設置箇所が31ヵ所とあるが、学校の敷地内に設置する場合、教員は校舎内に子どもたちがいると、放っておくこともできず、何らかの関わりを持たないといけないという責任感があり、働き方改革等にも関係してくる。再来年度開校予定のみなど小学校を含め、どのような方向性を持っているか。

→児童の安全を考えると学校の敷地内か隣にあるのが望ましく、学校周辺でまずは考えている。みなと小学校については、学校の校舎に学童保育施設として設計の要望を上げており、敷地内1階の離れに学童の施設を入れてもらえるということで進めている。

- 児童虐待防止の支援の充実について。育てるというところでは、子どもを持つ親の支援、周りが助けるようなシステムづくりが大切。児童虐待を防ぐだけというよりは、親の支援というか育成というか、そういうものが充実できるような施策になればいい。子どもの叫び声が届かない支援というのは悲しい。

障がいの子どもの支援。子どもが困っているところを受け止めて支援することは、本当に教育の中でされていくことなのか。子どもを育てる教育者、保育者などの養育者がしっかりと、そのことを知識として持つような支援が組み込まれるといい。

- 計画の記述についての意見

- ・資料2-1・1ページについて、「阻害」という言葉をもう少しやわらかい言葉へ。
- ・5ページについて、「国としては、東京都をはじめ意欲的な自治体を支援する」とあり、伊勢市は意欲的だと思うが、意欲的でない自治体もあるのか。
- ・強調するための二重かぎ括弧の使い方、表やグラフの書き方、ラベルの付け方。
グラフを見たらわかるだろうではなく、何から何に変化したという文章の書き方がわかりやすい。
- ・表やグラフ中のNや5歳階級別就業率の説明が必要。
- ・24ページについて、「家庭と地域と社会が手をつないで子どもを育むまちづくり」とあるが家庭と地域と社会が手をつなぐだけではなく、学校関係が繋がらないといけない。家庭と学校と地域が繋がらないといけない。

・家族と家庭はどう違うのか。どのように位置づけているのかわからない文章になっている。

●令和2年から令和6年までの2期計画でどこにでも出せる、自信を持ってできる、この部分だけは大きな成果だった、というのをやっていかなければならない。

●スマート保育は画期的なことで、これが他のこども園や保育所や幼稚園に広がっていくひとつのステップであると思う。

●離職の問題。給与の問題や仕事の大変さという部分で離職していく人が多い。どのように考えているか。

→スマート保育のシステムによるICT化を図って業務負担を軽減すること、保育士さんの働きやすい勤務条件を考えることで、離職防止に繋げたい。

●国の施策として資格がなくてもできる時代になってきて、ありがたいことだと思っており、伊勢市としても離職という部分でそういう施策が必要に感じる。

●量も大事だが、待機児童がなくなったら今度はその待機児童をどう質的に高めた育てを行うかが必要になってくる。

●伊勢として独自の施策も入れながら、こんな伊勢市に住みませんか、伊勢市で子育てしませんかといった伊勢市をアピールするような文章が入っているといい。

【事務局より】

議題（3）について説明（資料3）

●出席率を高めるため、開催通知から開催日までの余裕があるといい。数ヶ月前に時間調整するというのは難しいかと思うので、代理というか代わりにその業種を代表する方が出席するようなシステムを考えてほしい。

→意見を踏まえて、調整をさせていただく。

【その他】

議事録のホームページへの公開に関することの説明。

●昨年は採用がゼロであったが、保育士の募集は毎年行ってほしい。